

# 事前出荷情報（ASN）の運用指針

---

初版

2026年3月

**メーカー・卸間次世代標準EDI推進協議会**

（事務局：一般社団法人 日本加工食品卸協会）

# はじめに

---

持続可能で生産性の高い物流及びSDGsに向けた伝票レスと検品レスの業務運用に円滑に移行することが重要な課題となっている。

そこで、酒類・加工食品、菓子メーカーと卸をメンバーとする「メーカー・卸間次世代標準EDI推進協議会（事務局：一般社団法人 日本加工食品卸協会）」において、伝票レスと検品レスの標準業務運用に円滑に移行できるよう、メーカー、荷役・配送業務を担う物流事業者、卸における事前出荷情報（ASN：Advanced Shipping Notice）の標準業務運用について検討を進めてまいりました。

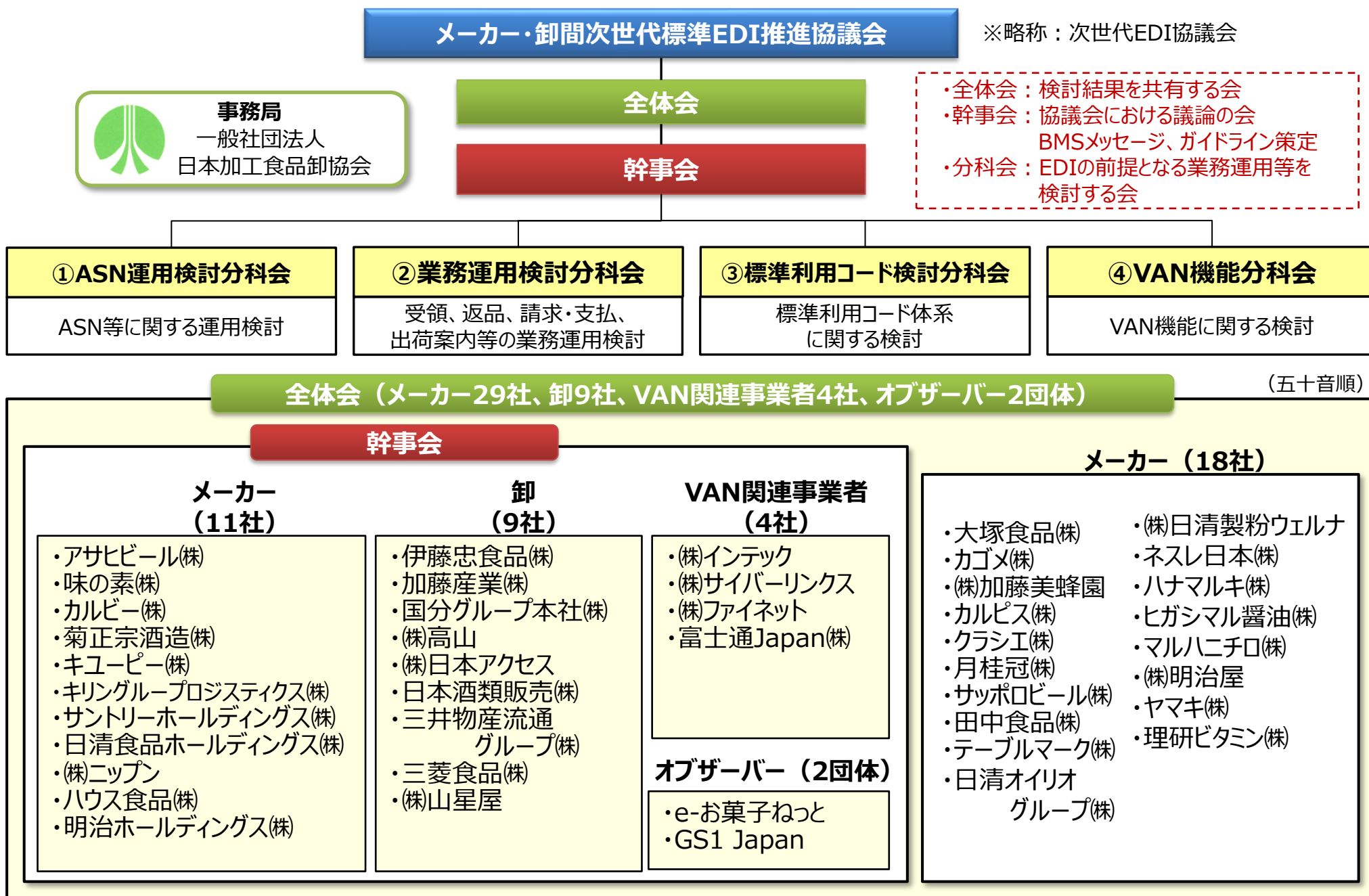
ここに酒類・加工食品、菓子におけるメーカー・卸売業間の事前出荷情報（ASN）の運用指針を取り纏めましたので、各社の参考となり、物流業務の改善と労働生産性等の向上に貢献できれば幸いです。

なお、一部受領運用に関して、別途決まり次第、本運用指針の改定版にて公開させていただきます。

メーカー・卸間次世代標準EDI推進協議会  
事務局 一般社団法人 日本加工食品卸協会

# 「メーカー・卸間次世代標準EDI推進協議会」体制図

(2026年3月現在)



# 目次

---

- 1. メーカー・卸間納品業務に関する基本方針
- 2. ASN活用による効果
  - 2-1. メーカー
  - 2-2. 卸
- 3. ASNにおける全体像
- 4. ASNレベル
  - 4-1. メーカー・卸（納品先業者）間の業務全容
- 5. ASN運用におけるデータ交換
  - 5-1. 卸汎用イメージ
  - 5-2. 小売専用・外部倉庫他イメージ
  - 5-3. 小売専用イメージ
  - 5-4. 主なASNデータ設定項目
  - 5-5. データ送信スケジュール
- 6. 伝票レスにおける基本運用
- 7. 配送指示書の運用方法
- 8. 検品レスの運用
  - 8-1. 業務分担
  - 8-2. 基準・担保内容
  - 8-3. 瑕疵対応
- 9. 「ASN対応/非対応」のメーカー混載便に対する荷受け運用
- Appendix
  - 【参考】1. ASN活用に関する業務フロー（現行）
  - 【参考】2. ASN活用に関する業務フロー（レベル1:日別拠点別）
  - 【参考】3. ASN活用に関する業務フロー（レベル2:車両単位）
  - 【参考】4. ASN活用に関する業務フロー（レベル3:パレット単位）

# 1. メーカー・卸間納品業務に関する基本方針

- 物流業界は労働力不足が深刻化しており、今後モノを運べないという問題が発生することがない様、**持続可能な物流体制の構築を行う**。又、カーボンニュートラルに向け**CO2排出量の削減を行う**。
- 酒類・加工食品・菓子におけるメーカー・卸売業間の物流は、**納品待機時間や荷卸し時間等の課題**を抱え、**トラックドライバーの長時間労働**の一因となっており、トラック有効活用や納品ドライバーの業務負荷低減を実現すべく、**製販間での物流業務のデジタル化・省力化・効率化**を進める。
- 酒類・加工食品業界では、2016年日本加工食品卸協会にて事前出荷情報データ（以下、ASN）が定義され、ASNを活用した納品が開始され、メーカー・卸売業間の納品業務の改善に取り組んできたが、ASNの利活用が限定的となっており、更なる活用を促進する。
- 今後、ASN納品における納品業務の効率化の実効性を上げるためには、メーカー・卸売業・物流事業者の三者間で運用基準を定め、酒類・加工食品・菓子における**荷受け時の「検品レス」「伝票レス」運用の標準化を進める**。
- 酒類・加工食品、菓子における製販間の納品業務の標準化を進める上で**「伝票レス・検品レス」運用の基本方針**を定める。

## 2. ASN活用による効果

### 2-1. メーカー

- 検品レスの実施により、①納品連絡のデジタル化②ドライバー作業環境改善③荷卸し時間短縮④入荷待機時間削減等により物流資源の効率化が図れる。
- 伝票レスの実施により、①伝票事務作業削減②デジタルによる効率化 ③ペーパーレス化等の効果が図れる。

	検品レス	伝票レス
共通	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 納品連絡等のデジタル化<ul style="list-style-type: none"><li>・納品に関する連絡のデジタル化による業務が効率化</li></ul></li><li>■ 入荷業務の簡素化・標準化<ul style="list-style-type: none"><li>・立ち合い検品不要による納品時作業の簡素化</li><li>・業界統一の運用による業務標準化。</li><li>・ドライバー作業環境改善への寄与。</li></ul></li><li>■ ドライバー拘束時間の削減<ul style="list-style-type: none"><li>・簡易検品導入による荷卸し時間の短縮・効率化</li></ul></li><li>■ 入荷待機時間の削減<ul style="list-style-type: none"><li>・受付/荷卸し時間の効率化によるバス回転率の向上と待機時間の削減</li></ul></li><li>■ 物流資源の効率化<ul style="list-style-type: none"><li>・入荷に関する時間短縮による車両稼働率が向上。</li></ul></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 伝票事務作業の削減<ul style="list-style-type: none"><li>・伝票発行事務作業の削減によるコスト抑制が可能</li><li>・受領書回収チェック業務廃止による業務効率化</li></ul></li><li>■ ペーパーレス化の実現による効果<ul style="list-style-type: none"><li>・データ化による紙環境負荷への貢献が可能</li><li>・伝票保管スペース圧縮による効率的活用</li><li>・保管期限満了後の廃棄処理費用減</li></ul></li><li>■ 売掛金確定の早期化/効率化<ul style="list-style-type: none"><li>・受領データ活用による売掛確定の自動化実現</li><li>・受領データによる訂正内容の把握が可能</li></ul></li><li>■ 請求・支払い業務の効率化<ul style="list-style-type: none"><li>・受領データ活用による請求データの早期化。</li></ul></li><li>■ 業務のデジタル化拡大<ul style="list-style-type: none"><li>・データ保管による違算時の確認業務・検索等の業務短縮化</li></ul></li></ul>

## 2. ASN活用による効果

### 2-2. 卸

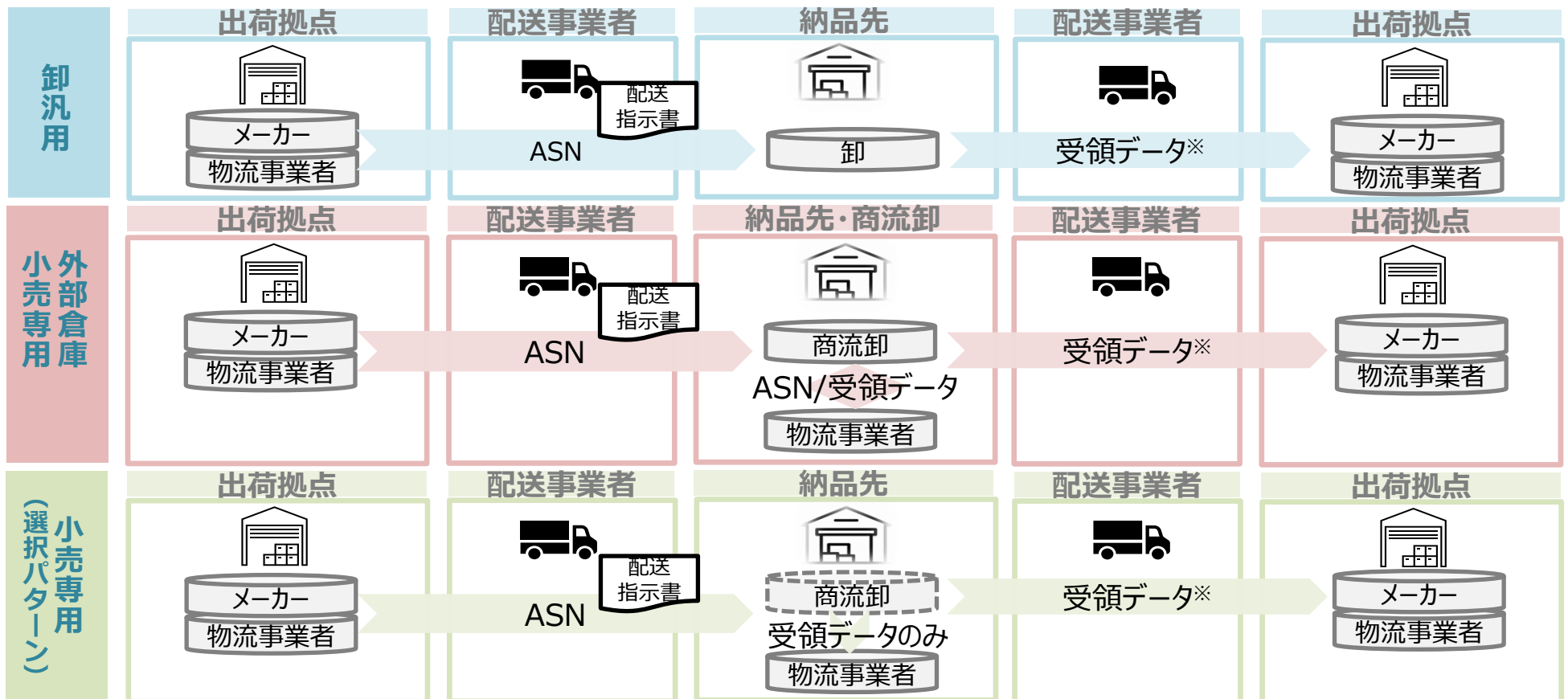
- 検品レスの実施により、①入荷受付業務の効率化②検品業務方法変更(入力→確認)による生産性・精度向上③検品業務の作業分担による効率化等により入荷業務全体の効率化が図れる。
- 伝票レスの実施により、①伝票での確認/修正業務工数削減②事後照合作業廃止③ペーパーレス化等の効果が図れる。

	運用	
	検品レス	伝票レス
ASN 共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>入荷受付作業効率の向上</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予定特定(オーダーNO⇒拠点・車両へ変更)によるバース割付業務簡素化</li> <li>・伝票単位の照合確認不要。</li> </ul> </li> <li>■ <b>検品作業効率・精度の向上</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前数量/日付確認での検品方法による効率化</li> <li>・日付確認入力作業減によるヒューマンエラー軽減</li> </ul> </li> <li>■ <b>簡易検品導入による運用の効率化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・荷卸し時間短縮及び作業分担による入荷効率向上</li> </ul> </li> <li>■ <b>入荷業務の効率化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数量の事前把握による事前準備の最適化(人員等)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>入荷作業効率の向上</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受付業務の伝票単位での確認不要</li> <li>・受領書の修正・押印省略による業務効率化</li> </ul> </li> <li>■ <b>事後照合事務作業の廃止</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ照合による事後での伝票確認業務不要</li> </ul> </li> <li>■ <b>ペーパーレス化の実現による効果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ化による紙環境負荷への貢献</li> <li>・伝票保管スペース圧縮/伝票廃棄費用削減</li> </ul> </li> <li>■ <b>業務デジタル化拡大</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・確認業務・検索業務の短縮化</li> </ul> </li> </ul>
ASN レベル2	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>検品作業効率の向上</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車両単位の検品による作業精度・生産性向上</li> </ul> </li> <li>■ <b>入荷台数事前把握によりバース効率化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷台数の事前把握可能によるバース効率最適化</li> </ul> </li> </ul>	-
ASN レベル3	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>検品作業効率の向上</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PL単位の検品による大幅な作業精度・生産性向上</li> </ul> </li> </ul>	-

### 3. ASNにおける全体像

- ❑ メーカーは、卸又は運営事業者へVAN事業者を經由し「ASN」を送信。又、**メーカーによるASN作成が難しい事**を考慮し、**物流事業者にASN作成可能なプラットフォーム**を提供する。
- ❑ 納品先≠商流卸や汎用外部倉庫を活用している事も踏まえ**①卸汎用型②小売専用/外部倉庫型③小売専用**に分け、ASN送信方法を定義する。但し、小売専用型は納品先へASNデータ早期配信も踏まえ、**メーカー⇒物流事業者への配信も選択可能**とする。
- ❑ 伝票レスを実現する為に、製配間は「**配送指示書**」の運用を開始し、ASNを作成したメーカー・物流事業者へ「**受領データ※1**」を返送する。

※「受領データ」に関する運用・データ仕様に関し検討中（別途、公開予定）。



...同時配信

## 4. ASNレベル

早期のASN活用（各社の実態に沿った）に繋げるために、ASNを3つのレベルに定義する。

- ASN納品における納品業務の効率化の実効性を上げるため、新たに**日別拠点別ASN(ASNレベル1)**を**実装し、検品レスの拡大**を図る。
- 納入物流事業者によるASN送信とすることで、ASNの導入障壁が大きく下がる事が想定されることから、『**ASNレベル2を基本選択**』ラインとしながら、『**ASNレベル1**』についても導入効果が見込まれる。

レベル	データ内容	主な項目
ASNレベル1	日別拠点別アイテム別賞味期限別数量のASN情報	賞味期限
ASNレベル2	日別車両別アイテム別賞味期限別数量のASN情報	賞味期限・車両情報
ASNレベル3	日別車両別ユニット別アイテム別賞味期限別数量のASN情報	賞味期限・車両情報・ユニット情報

※ASN作成はメーカー以外に物流事業者が作成可能とする。

## 4. ASNレベル

### 4-1. メーカー・卸（納品先業者）間の業務全容

- メーカーより賞味期限・数量を事前情報取得を前提に**メーカー・納品先間の検品は、外装確認や簡易検品（パレット数確認等）**のみとすることで**立会検品レス**を実現し、それ以降の業務は卸側の業務とする。
- ASNレベル1の簡易検品方法は、事前にメーカー・卸(物流事業者)にてパレット枚数or総個数等の運用を取決めする。
- メーカーの**持参物は配送指示書**のみとし、納品日翌日に**メーカーに受領データを送信することにより伝票レス**を実現する。

		入荷前事前確認 (N-1)		入荷当日(N+0)				入荷当日 持参物	N+1 受領D
				メーカー・卸間		卸(物流事業者)			
		賞味期限	数量	検品方法	格納ラベル	賞味期限	数量		
ASNレベル1 (明細単位)	賞味期限 無	—	照合 /確認	立会検品 <b>※賞味期限無し：立会検品・伝票レス</b>	通常検品		<b>伝票レス</b> 配送指示書 伝票不要	確認後 送信	
	賞味期限 有	ASN情報にて 照合確認		<b>立会レス</b> (パレット数 Or 個数) (外装確認)	発行 ※各社判断	格納ラベル発行時 に確認※各社判断			
ASNレベル2 (車両単位)	賞味期限 無	—	照合 /確認	立会検品 <b>※賞味期限無し：立会検品・伝票レス</b>	通常検品		<b>伝票レス</b> 配送指示書 伝票不要	確認後 送信	
	賞味期限 有	ASN情報にて 照合確認		<b>立会レス</b> (パレット数) (外装確認)	発行 ※各社判断	格納ラベル発行時 に確認※各社判断			
ASNレベル3 (ユニット単位)	賞味期限 有	ASN情報にて 照合確認		<b>立会レス</b> (パレット数) (外装確認)	発行 ※各社判断	格納ラベル発行時 に確認※各社判断	<b>伝票レス</b> 配送指示書 伝票不要	確認後 送信	

## 5. ASN運用におけるデータ交換

- 本内容は、新たに構築予定のメーカー・卸間次世代標準EDIにおける「メーカー・卸間BMS※」における内容となっている。

しかしながら、現状の日食協フォーマット※<sup>1</sup>にて運用が可能であれば、それを妨げるものではない。本運用指針を基にメーカー・卸相互にできる範囲にて確認・対応可能。

※1：日食協フォーマットは、今後バージョンアップ予定なし。

- メーカー・卸間BMSとして、新たに以下のメッセージを作成する。  
なお、本メッセージに関するガイドライン・仕様等は別途公開予定。

①	発注メッセージ	卸→メーカー	卸がメーカーに商品を発注するためのメッセージ
②	受注回答メッセージ※ <sup>2</sup>	メーカー→卸	メーカーが卸に、受注後の出荷予定数量を伝えるためのメッセージ
③	事前出荷メッセージ(ASN)	メーカー→卸	メーカーが卸に、事前に出荷明細情報を伝えるためのメッセージ
④	受領メッセージ※ <sup>2</sup>	卸→メーカー	卸がメーカーに納品受領した明細情報を伝えるためのメッセージ

※2：日食協フォーマットにないメッセージ。

【備考】

・Step1として、①～③を作成予定。また、Step2として、④を作成予定。

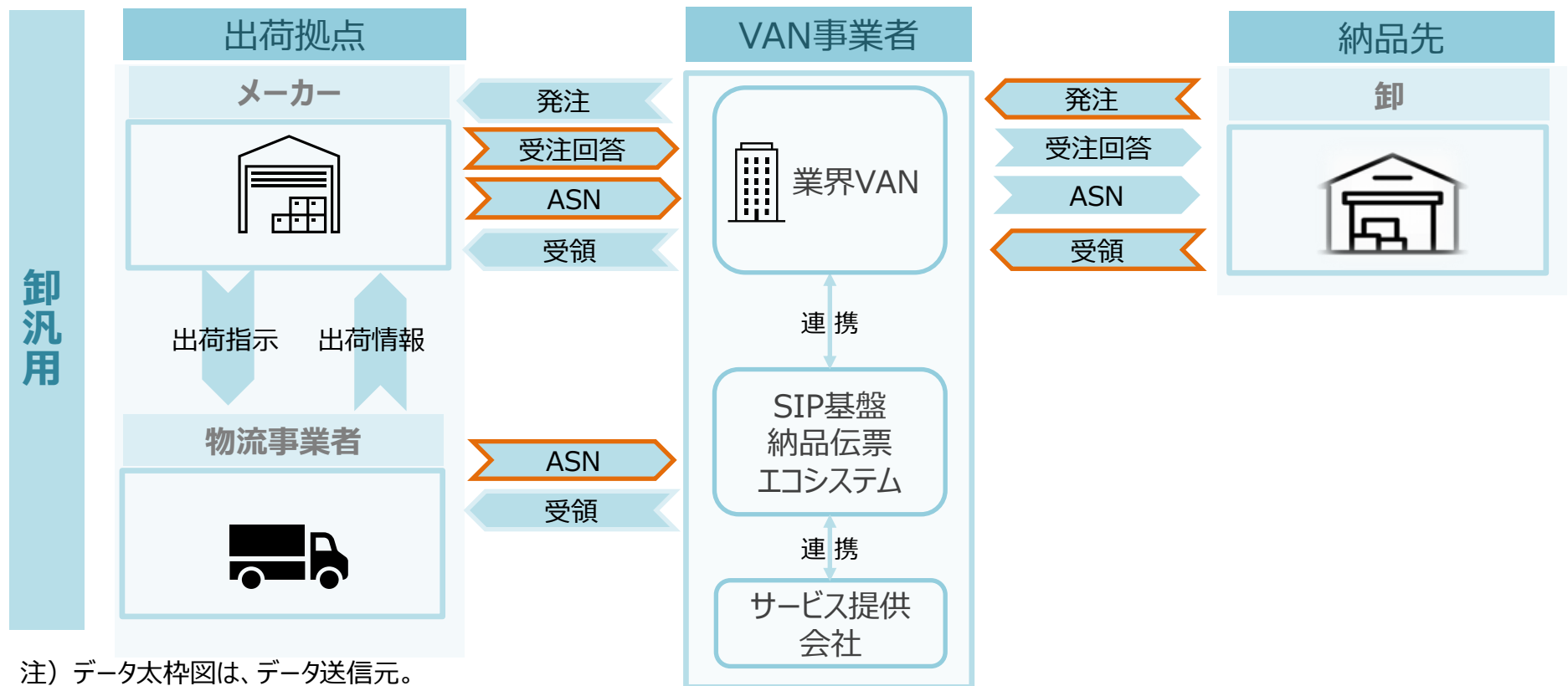
- 次頁以降の5-1～3は、メーカー・卸間BMSを想定したデータ交換パターン。
  - ・ 業界VANにて、業界VANフォーマットとメーカー・卸間BMSメッセージ変換機能やSIP基盤納品伝票エコシステム等と連携して頂き、相互メッセージ変換機能を実装して頂く予定。
  - ・ 卸は業界VAN経由の送受信を想定。また、メーカーは業界VAN又はSIP基盤納品伝票エコシステム等経由の送受信を想定。

## 5. ASN運用におけるデータ交換

### 5-1. 卸汎用パターン

- **メーカー（物流事業者）の拡充を視野に入れ、VAN事業者経由のASNデータ交換**とした新たなデータプラットフォームを構築し、本運用を前提とし、納品先は「受領データ」を返送する。
- メーカーが**SIP基盤等を利用する場合は、業界VAN事業者にてデータ連携**する。

#### 卸汎用型センター



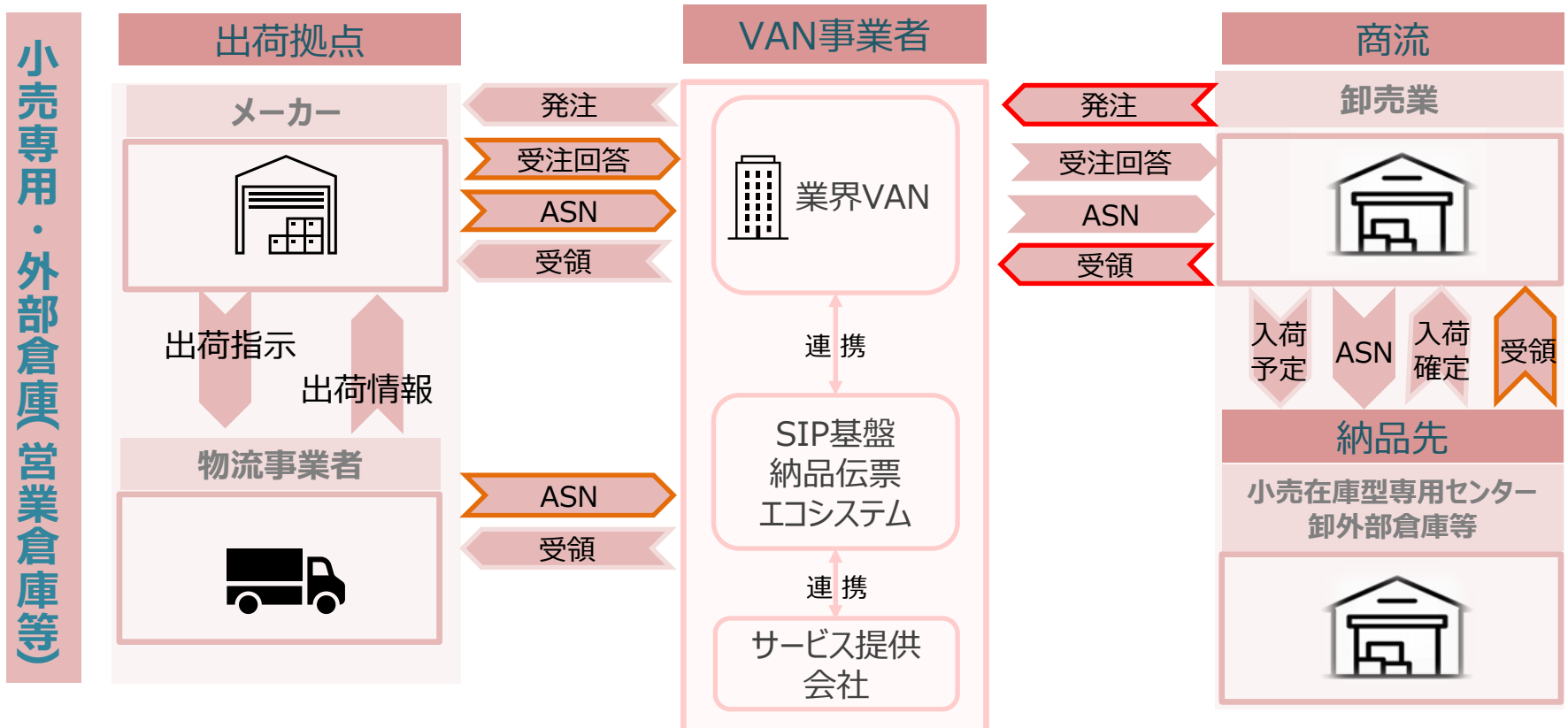
## 5. ASN運用におけるデータ交換

### 5-2. 小売専用・外部倉庫他パターン

- **納品先≠商流卸**となる専用センター化（寄託化）及び営業倉庫・業務委託倉庫（小売寄託・卸寄託）の増加を踏まえ、**ASNは商流卸 → 納品先（小売在庫型専用センター、外部倉庫）への配信、受領データは、納品先（小売在庫型専用センター、外部倉庫）から商流卸経由でメーカーへ配信するパターン。**

#### ①小売在庫型専用センター

#### ②卸外部倉庫等（営業倉庫・業務委託倉庫（小売寄託・卸寄託型））



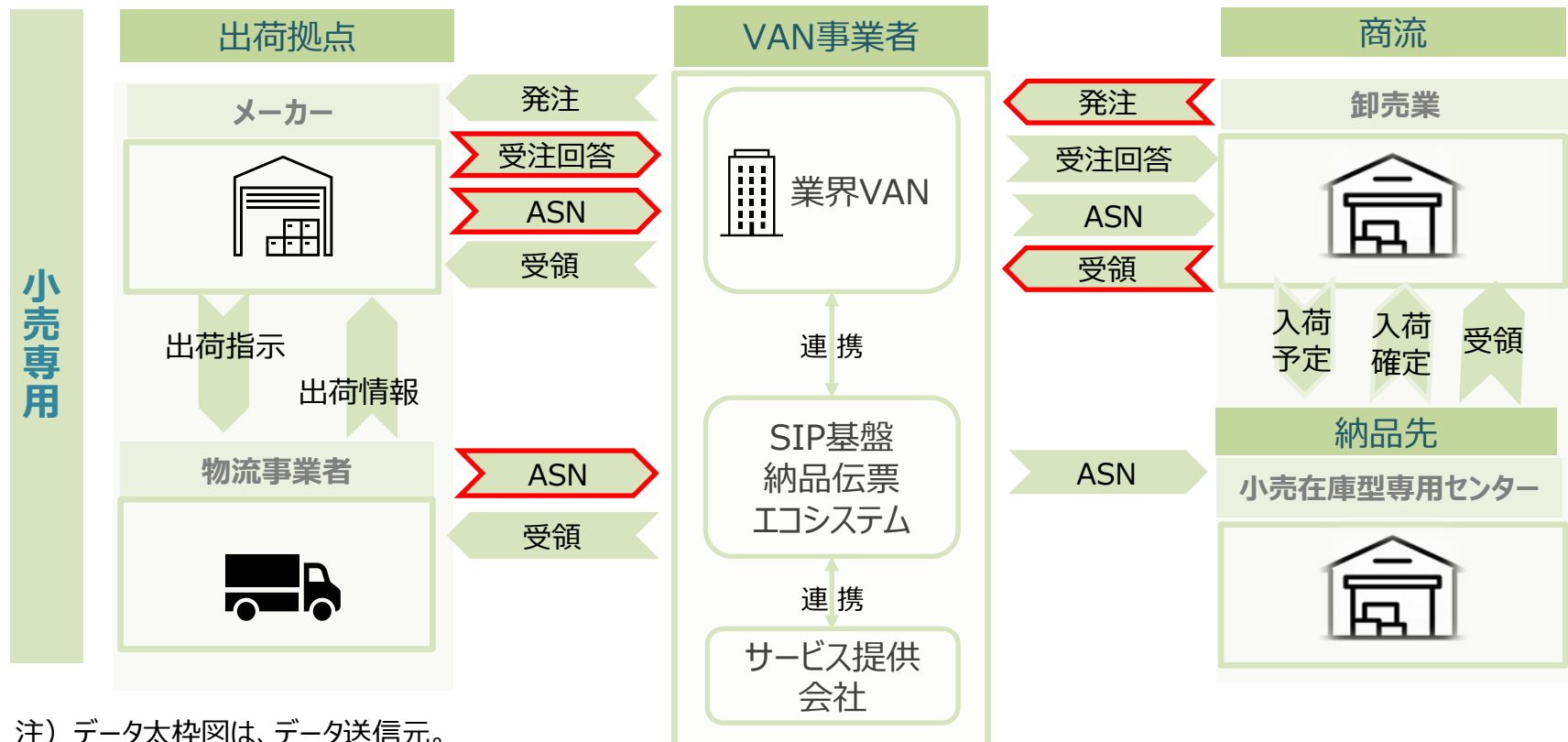
注) データ太枠図は、データ送信元。

## 5. ASN運用におけるデータ交換

### 5-3. 小売専用パターン（ASNを商流卸と納品先(小売)両方に提供）

- 小売専用センターの場合**商流・納品先間**が**N対1**であり、納品先独自のシステムで運用される事から、**選択肢**として、**ASNをメーカーから「VAN事業者」経由で、商流・納品先(小売在庫型専用センター)の両方に提供するパターン**。
- 納品先が作成した**受領データ**は商流卸から**メーカーへ送信**する。

#### 選択パターン ※小売在庫型専用センターの場合



## 5. ASN運用におけるデータ交換

### 5-4. 主なASNデータ設定項目

- ASNのレベルにより、メーカーがASN情報をセットする内容が変わる。ASNレベル2は車両情報・ASNレベル3は車両情報・パレット情報が必須となる。
- 基本**GS1事業者コード・GTINコード等標準コードを設定**する。なお、一部課題があり、卸並びに小売業専用センターは、プライベートコードを使用しており、課題がある。
- 納品先は**入荷データ特定にASNレベル1は納品日・出荷元、ASNレベル2は納品日・出荷元・車両識別番号・車両情報、ASNレベル3は納品日・出荷元・車両識別番号・車両情報・パレット情報**をキーとする。

項目	内容	ASNレベル		
		1	2	3
納品日	実納品日	○	○	○
メーカー倉庫コード	メーカー出荷倉庫コード	○	○	○
次店コード	次店コード(届先)・名前・住所・連絡先	○	○	○
提供企業コード	提供企業コード、提供企業名、提供事業者コード、提供事業者名	○	○	○
メーカーコード	メーカーコード、メーカー倉庫コード、メーカー所属組織名	○	○	○
メーカー伝票番号	メーカー伝票番号	○	○	○
伝票番号	卸発注伝票番号	○	○	○
商品コード	商品コード	○	○	○
商品名	商品名	○	○	○
発注単位	入数	○	○	○
出荷総バラ数量	実数量（欠品の場合は0でセット）	○	○	○
商品鮮度日付（賞味期限）	同一商品で複数商品鮮度日付（賞味期限）有る場合は別セット	○	○	○
配送便NO	配送便の車両NO、商品と車両を紐づけするユニークNO		○	○
パレット管理NO	パレットの管理NO			○

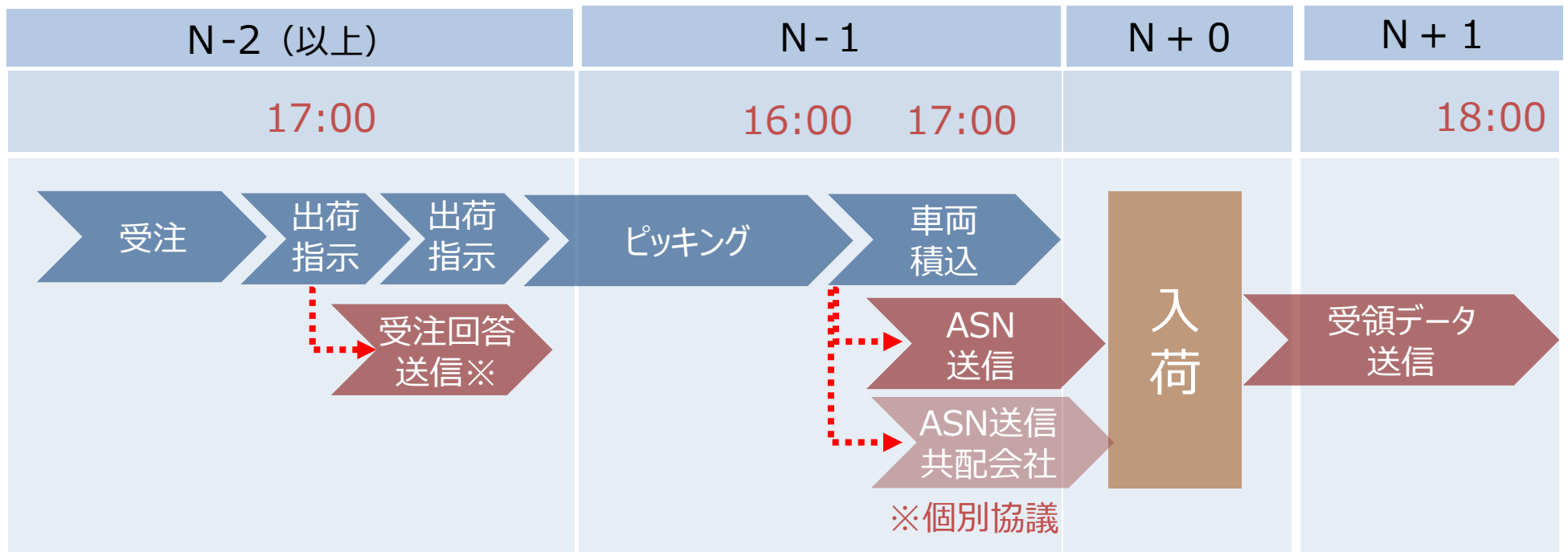
## 5. ASN運用におけるデータ交換

### 5-5. 送信スケジュール

- ASNの送信スケジュールは、納品日前日17時までには送信することとする。なお、共配会社作成のASNは荷揃えのタイミングを考慮し、個別に協議する。
- 受注回答は卸発注部署にて次回発注量決定に活用する。メーカーは受注当日迄に納品日・数量等(賞味期限不要)を加味したデータを受注日当日17:00迄に送信する。
- 卸からの受領データ送信は、納品日翌日18時までには送信する。

ASN  
協力要件

- ・ASNデータ作成時間を確保する目的で卸⇒メーカーへの納品LTN-2（以上）を基本とする。
- ・車両積載率向上や倉庫荷役作業効率化のために可能な限りハイ面発注を行う。

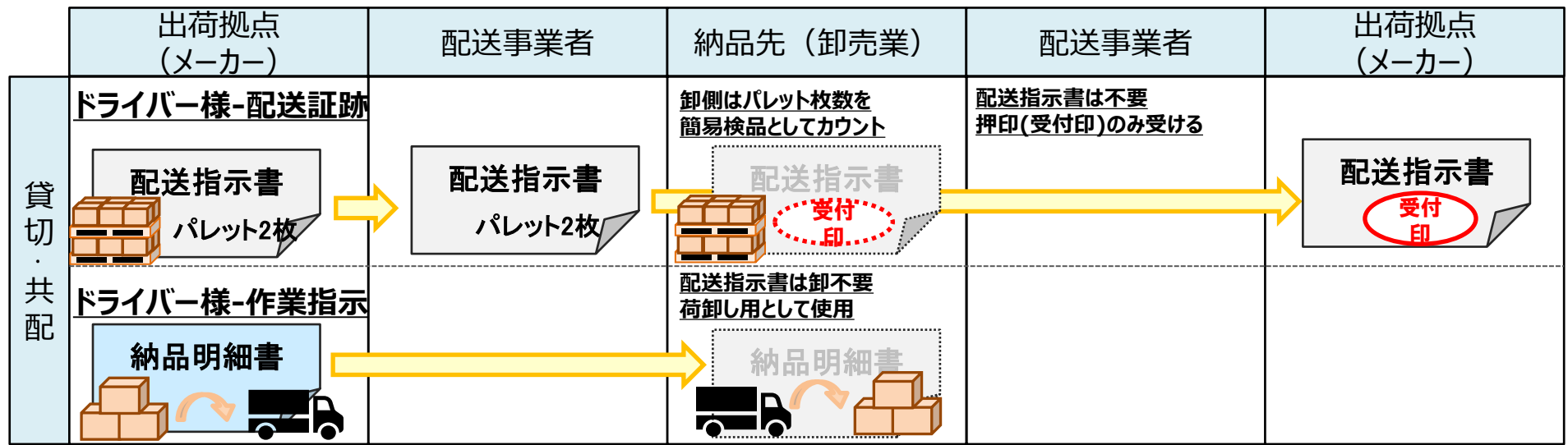


## 6. 伝票レスにおける基本運用

- メーカーは納品伝票を廃止し、「**配送指示書**」を発行し、納品先へ持参する。ドライバー作業指示書は、**必要に応じて納品明細書を発行**する。
- **納品先は簡易検品後、受付印を押印**し、ドライバーへ返却する。但し、押印は受領を確約ではなく「受付印」の位置づけとなる。又、納品先は配送指示書の保管しない。
- **簡易検品にて、差異・外装破損等**が発生した場合、運営会社は**ドライバーへの立会い検品**を求めることができる。

※パレット伝票等の電子化について、今後検討する。

### 配送指示書/納品明細書の運用イメージ図



## 7. 配送指示書の運用方法

- 配送指示書は、ASNデータを活用し、①配送情報②荷物情報③メモの構成にて作成する。  
なお、納品先は配送識別番号を活用し、荷受け時の入荷予定データの特定に活用する。
- メモ欄は、ドライバーへの指示事項や納品時の差異事項の連絡に活用する。又、製販間でオーダーNOが必要な場合は事前に取り決めし、記載もすることも可。

注) 配送指示書が作成できない場合、配送識別番号 + (簡易検品向けの) パレット枚数のみ記載を必須とする。

配送識別番号: 10060405B20240618\_1

配送指示書

納品日	YYYY/MM/DD	受付印
届け先	〇〇県〇〇市〇〇町〇-〇-〇 株式会社 〇〇〇〇 ●●●センター	
電話番号	〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇	
出荷拠点	〇〇〇〇会社〇〇センター △△県△△市△△町△-△-△	
電話番号	△△-△△△△-△△△△	
乗務員名	△△ △△	
車番	△△△△	
車輛識別コード	△△△△	

荷主名	パレット枚数	ケース数 (任意)	バラ数 (任意)	備考 (任意)
合計				

メモ

配送情報

納品日、届け先（住所/名称/電話番号）、出荷拠点（住所/名称/電話番号） 配送便NO、配送識別番号(納品日+次店コード+ 配送便NOにて構成)

荷物情報

荷主名称、パレット枚数、ケース数量(任意)、バラ数量(任意)、備考

メモ

- オーダーNOが必要な場合はメーカー・卸間で事前取り決めにより記載可
- ドライバーへの指示事項（入荷予定時間等）も記載可
- 簡易検品時に納品差異が発生した場合、訂正内容を手書きで記載。
- 入荷許容オーバー発生時に持戻り商品も手書きで記載。

## 8. 検品レスの運用

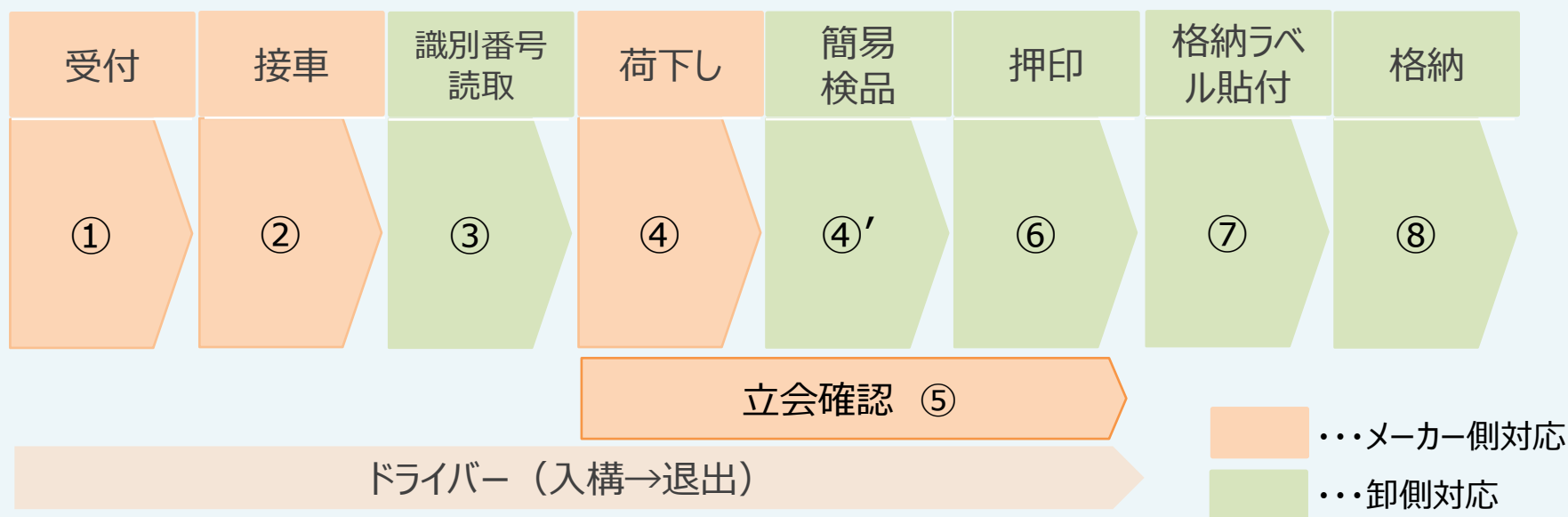
### 8-1. 業務分担

□ メーカーの業務範囲は、**荷卸し作業まで**、**立合い範囲は荷卸しから「配送指示書」に押印**までとし、それ以降の業務は卸側にて行う。

□ 検品レス運用における**商品の受け渡しは、「加工食品業界の取り組みガイドライン※」**に準ずるものとする。

※ 日食協HP「加工食品業界の取り組みガイドライン」参照。

#### 検品レス時標準業務分担



#### 商品の引き渡し方法

- 検品レス運用における標準的な商品の受け渡しは、「加工食品業界の取組ガイドライン」に準じ、**検品できる状態に商品を整列する荷卸し迄**とする。
- 納品方法については、個別取引条件に関わる場合がある為、メーカー・卸売業間で条件を明確化する。とする。

## 8. 検品レスの運用

### 8-2. 基準・担保内容

- 検品レスを開始する上で納品精度が重要であり、**一定期間(3か月程度)の納品精度 (基準：対象拠点合計での納品率99.9%)**を相互確認・評価し、実施する。
- 納品精度が基準を下回った場合は、**ドライバー立会検品**に切り替える事も可能とする。
- 出荷・納品時に担保すべき内容(**製品・数量・日付**)の**確認、及び外装確認**を順守することで、納品精度等の維持ができる。

<p>検品精度水準</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前にメーカー・卸間にて対象拠点を明確にし、<b>対象拠点合計の実納品伝票件数と事故伝票件数(数量・日付違い)</b>を持って納品精度を評価。(納品率99.9%以上の精度を担保が条件)</li> <li>・ 共同配送拠点は、共同配送会社単位での検証とする。</li> </ul>		
<p>納品精度検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 納品精度の検証は、<b>一定期間(3か月程度)の実績にて評価</b>し、検品レスを開始。(メーカー・卸売業間で相互に確認)</li> <li>・ 開始後に納品精度の水準を下回った場合は、<b>納品精度が担保される迄、立ち合い検品</b>に切り替える。</li> </ul>		
<p>出荷・納品確認事項と担保内容</p>	<p style="text-align: center;">担保すべき内容</p>		
		<p>出荷時 (メーカー拠点)</p>	<p>納品時 (卸売り業物流拠点)</p>
	<p>数量</p>	<p>出荷指示書(ピッキングリスト等)の製品・数量と車両積込製品・数量一致</p>	<p>(対象外) ※立会検品レスでは相互確認しない</p>
	<p>賞味期限</p>	<p>出荷指示書(ピッキングリスト等)の記載の日付と現物日付が一致</p>	<p>(対象外) ※立会検品レスでは相互確認しない</p>
	<p>外観 (汚破損)</p>	<p>正 P L パレット積付状態から視聴可能な天面・側面に汚破損がない</p> <p>ケース 混載パレットに積付けられる製品外装に汚破損がない</p>	<p>パレット積付状態から視聴可能な天面・側面に汚破損がない</p> <p>混載パレットに積付けられる製品外装に汚破損がない</p>

## 8. 検品レスの運用

### 8-3. 瑕疵対応

- 立会検品後、卸側(物流事業者)にて商品確認した結果、**商品差異・数量過不足・汚破損・日付違いが発生**した場合は、**納品後3日(営業日)以内**にメーカーに申し入れる。
- 発生した事案については、メーカー・卸(物流事業者)間で原因を調査・協議し、処理方法を決定する。
- 日付違い商品は、**①入荷許容満たさない商品は返品②許容内の日付違いは、メーカー・卸(物流事業者)間で協議し**、処理方法を決定する。

瑕疵内容	瑕疵発生時対応
数量/商品差異	・数量差異の申し出は原則 <b>納品後、3日(営業日)以内</b> 。 →発着拠点の棚卸等、双方で原因調査し結果をもって責任所在を決定。
汚破損	・汚破損の申し出は原則 <b>納品後、3日(営業日)以内</b> 。但し、発現状況により別途協議。 →現品確認等。双方で原因調査を踏まえ、責任所在については協議。
日付違い	・日付違いの申し出は原則 <b>納品後、3日(営業日)以内</b> 。但し、発現状況により別途協議。 ・ <b>入荷許容を満たしていない</b> 商品は、 <b>メーカーへ返品対応</b> とする。 ・ <b>入荷許容内</b> にて日付違い商品は状況に応じ、 <b>別途協議</b> 。

※ **取り決め期日を経過後**もメーカー・卸の双方において納品精度・日付等瑕疵対応に関する申し出があった場合は、**両社にて状況に応じ真摯に対応・協議**を行う。

## 9. 「ASN対応/非対応」のメーカー混載便に対する荷受け運用

- **ASN対応メーカー及びASN非対応メーカーが混載便**にて入荷がある場合は、ASN非対応メーカーについては、従前の検品対応を伴う為、**当該納品ドライバーは伝票受領までを退出業務**とする。
- 混載便であってもASN対応メーカーについては簡易検品とする。

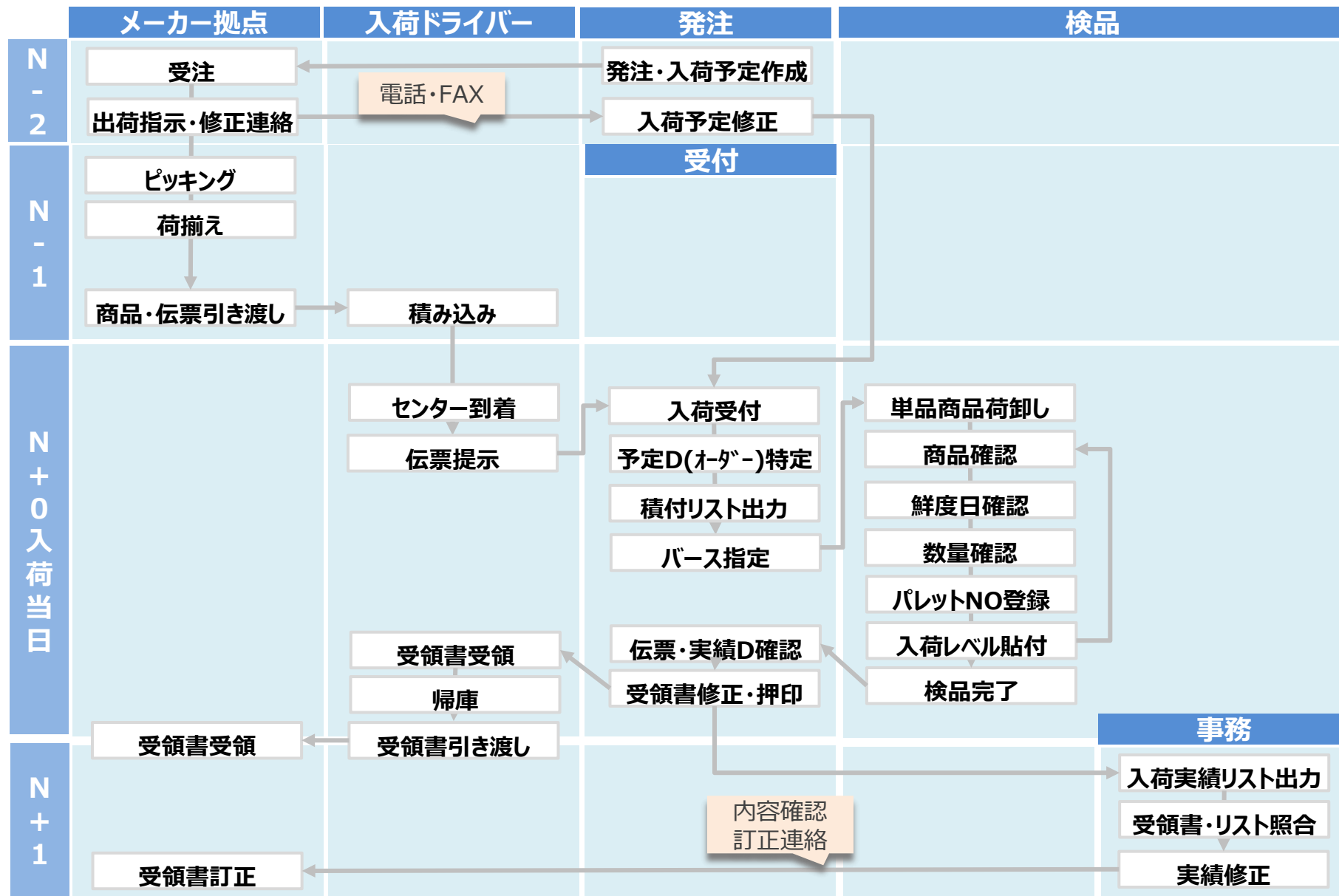
### ※ASN対応/非対応に対する荷受け運用

NO	持込形態		納品ドライバー対応	卸側(物流事業者) 荷受け対応
1	ASN対応メーカーのみ		・検品可能な整列状態まで	検品レス(立会い省略)
2	非対応メーカーのみ		・検品完了/伝票受領まで	全品に対し検品対応
3	ASN対応/ 非対応、混載	ASN対応	・検品可能な整列状態まで	検品レス(立会い省略)
		非対応	・検品完了/伝票受領まで	全品に対し検品対応

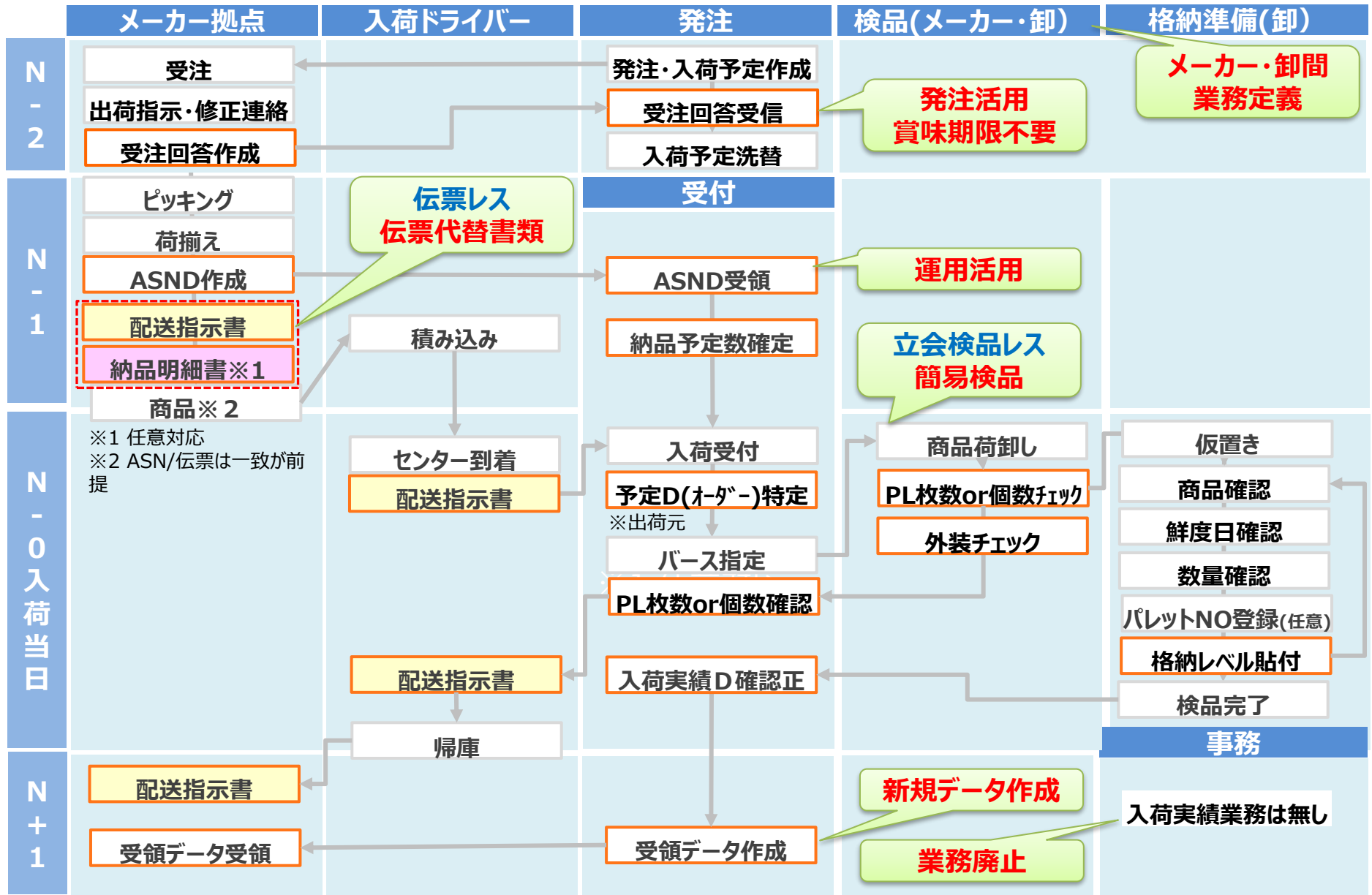
---

# Appendix

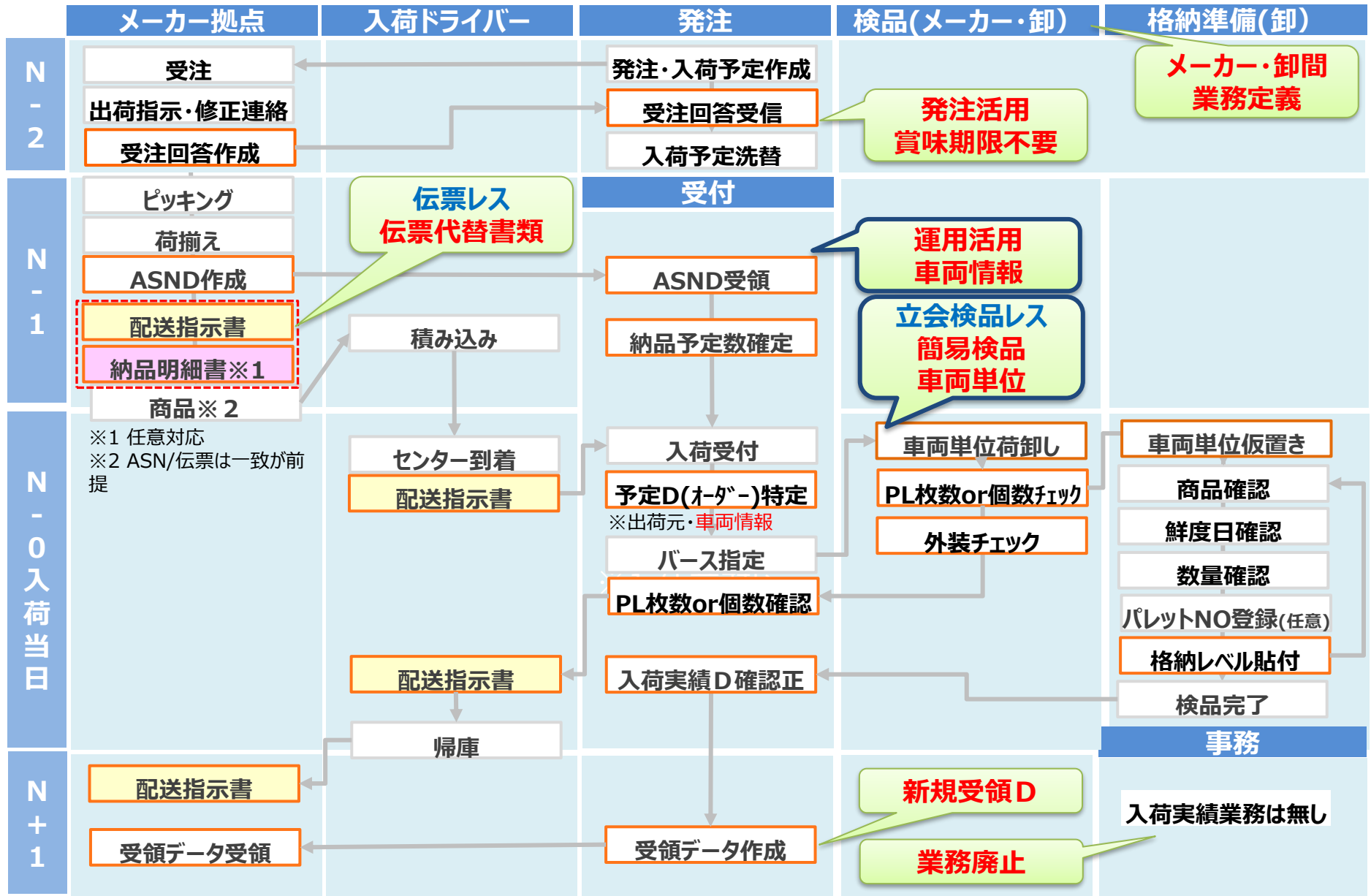
## 【参考】1. ASN活用に関する業務フロー（現行）



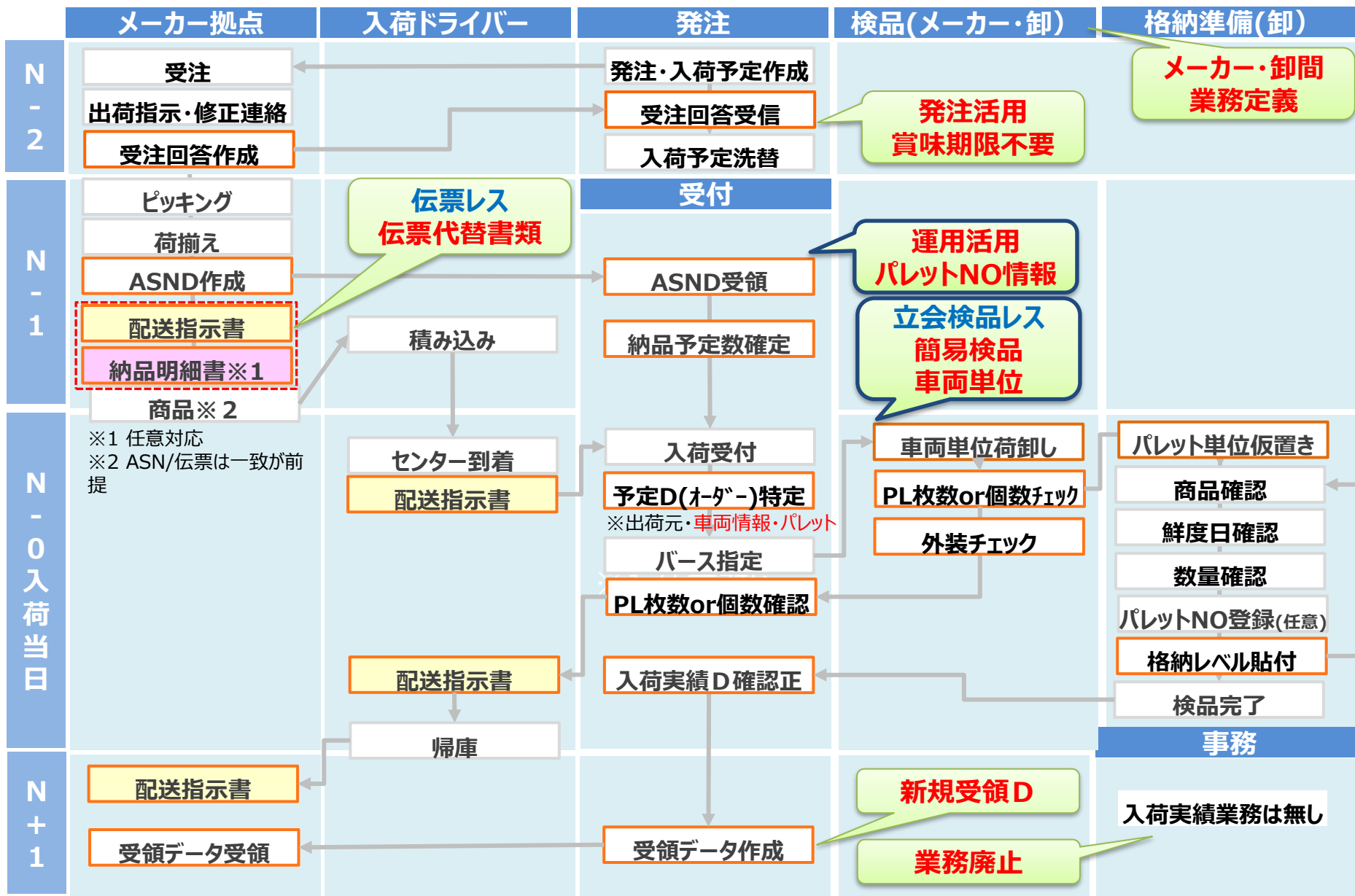
## 【参考】2. ASN活用に関する業務フロー（レベル1:日別拠点別）



## 【参考】3. ASN活用に関する業務フロー（レベル2:車両単位）



## 【参考】4. ASN活用に関する業務フロー（レベル3:パレット単位）



# メーカー・卸間次世代標準EDI推進協議会

事務局  一般社団法人 **日本加工食品卸協会**

〒103-0023

東京都中央区日本橋本町2-3-4 江戸ビル4階

電 話 03-3241-6568

F A X 03-3241-1469

U R L <http://nsk.c.ooco.jp/>

